

哀しみの涙
怒りの涙
喜びの涙

1998年
カンヌ国際映画祭
受賞作品
主演男優賞:ピーター・ミュラン

A KEN LOACH FILM

MY NAME IS JOE

PETER MULLAN LOUISE GOODALL



ジョー・カバナー37歳、元アルコール依存症。やっと手にした幸せ、とても壊れやすい幸せ。

巨匠ケン・ローチが描く、きびしさややさしさ、そしてユーモアに包まれた珠玉のラブストーリー。人間の真実がここに在る。

ピーター・ミュラン/ルイーズ・グッドオール主演

1998年/4月13日/30分/184分/FSK12/ビスタ 提供:シネカノン/TBS 配給:シネカノン

ケン・ローチ監督作品

マイ・ネーム・イズ・ジョー



はかなくも美しい感動作

絶好調のイギリス映画界が世界に誇る、至宝ケン・ローチ 待望の新作が遂に登場!

マイク・リー(『秘密と嘘』)が「心の支え」と讃え、ケシロフスキ(『デカロング』『トリコロール』)はオーソン・ウェルズやフェリーニ、ベルイマンと並び称す。そしてR・アテンボローやA・バーカー、S・フリアーズは彼からの多大な影響を熱く語る。また映画界以外でもファッション・デザイナーのアニエスb.やミュージシャンのノエル・ギャラガー(オアシス)、モリッシーなど、多くのアーティストから信望を集め敬愛されている巨匠中の巨匠。それがケン・ローチだ。

海外ロケによる壮大なスケールで描かれた前2作から、今回は再び小さな街に暮らす人々の日常を見つめ、より深く感情を揺さぶるラブストーリーを描いた格調高い人間ドラマになっている。全編にわたって独特のユーモアが溢れ、そこに社会への鋭い視線と人間を見つめる温かいまなざしが交錯する。そしてカンヌで審査員10人が全員一致で主演男優賞を決定した程の、ピーター・ミュランの圧倒的で完璧な演技。そのはかなくも美しい衝撃のラスト・シーンは、観る者全てを深い感動で包み込むだろう。

ジョーはやっとの思いでアルコール依存症を克服し、失業中ながら街で最低のサッカーチームの監督として幸せな日々を送っている。ある日、ジョーはセーラという女性に出会う。初めは反発し合っていたが、やがて二人の間にほのかな気持ちが始まる。しかしチームの選手でもある甥のリアムが抱える問題がもとで、事態は思わぬ方向へ進んでゆく...

1998年
カンヌ国際映画祭
受賞作品
主演男優賞:ピーター・ミュラン

出演:ピーター・ミュラン/ルイス・ワードル
監督:ケン・ローチ 脚本:ポール・ラヴァティ
撮影:リリー・エイクロイド 音楽:ジョージ・フェントン
挿入歌:「ダウングラス/ダストバイ/ステイタス・クォー」
[ハイソング音楽由二長興 作品61] ベートーベン



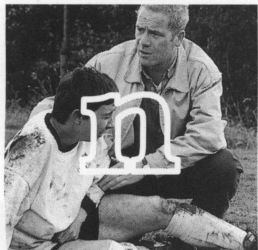
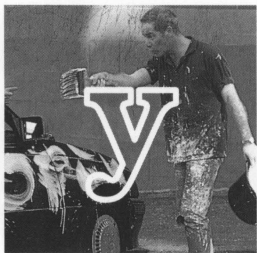
ケン・ローチは市井の人々のささやかな暮らしの営みを糸にして、美しき織物を生み出す名工だ。この作品を見ながら、ぼくはふと藤沢周平さんの小説を連想した。

山田洋次さん(映画監督)

★本年度最高のイギリス映画、そしてケン・ローチの最高傑作!!
[タイム・アウト誌] [タイム・アウト誌]

★まさに魂を揺さぶる映画だ!
[タイム紙]

★他の映画が甘い砂糖菓子のように見えてくる。
[ガーディアン誌]



1998年カンヌ国際映画祭における最高の作品

大久保賢一(映画評論家)

1998年のカンヌ映画祭授賞式。主演男優賞を獲得したピーター・ミュランは、キルトの巻きスカート姿で壇にあがった。ケルト民族に由来するスコットランドの正装だ。場内は大拍手。

この映画祭で観客もジャーナリストも最も心を動かされた主人公がジョーだった。もちろん、ぼくにとってもこの年のカンヌで最高の作品はケン・ローチの『マイ・ネーム・イズ・ジョー』だった。

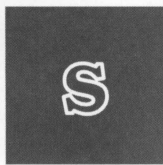
三十代も後半にさしかかって、頭のてっぺんは薄くなっているし、アル中からはやっとなげ出したのだが、とりあえず失業中、そ

れでも職探しよりは町のサッカーチームを監督することに忙しい。グラスゴーで最も弱いチームだが。

『リフ・ラフ』のロバート・カーライルや『レイニング・ストーン』のリック・トムリンソンがそうだったように、ケン・ローチもピーター・ミュランが描いたジョーは、身の丈も感情もごく普通の我々の隣人なのだ。

偶然出会ったセーラとの関係はうまくいくのか。麻薬取引を仕切るヤクザとの関係は?

グラスゴーという街の確かなリアリティ、俳優とプロでない出演者たちとの見事なアンサンブル、ジョージ・フェントンの表情豊かな音楽が一体となって、明るさと痛切さ、爆笑のユーモアと生きるための格闘のつらさが届き、心を揺さぶられる。優しく強靱な真のヒューマニスト、ケン・ローチの秀作だ。



マイ・ネーム・イズ・ジョー

◆ケン・ローチ Ken Loach

1936年生まれ。本名ケネス・ローチ。68年に「夜空に星のあるように」でデビュー以来、時代の流れに影響されることなく、常に変わらぬ深い洞察力でごく普通の生活の中に並外れたドラマを紡ぎ出し、社会と人間を描き続け、様々な映画祭で数多くの賞を受賞している。

◆主なフィルモグラフィー
1970 『ケス』 カルヴィン・ヴァリ映画祭グランプリ
1991 『リフ・ラフ』 カンヌ映画祭批評家連盟賞・ヨーロッパ映画大賞

1993 『レイニング・ストーンズ』 カンヌ映画祭審査員賞
1994 『レディバード・レディバード』 ベルリン国際映画祭銀熊賞(主演女優賞)
1995 『大地と自由』 カンヌ国際映画祭国際批評家連盟賞・ヨーロッパ映画大賞
1996 『カルラの歌』 ベネチア国際映画祭金のオセッラ賞受賞

7月31日(土)より堂々公開!

特別鑑賞券1500円(税込)好評発売中!
料金当日: 一般1800円/大・高生1500円/中学生1300円/小・シニア1000円
劇場窓口および各プレイガイド、チケットぴあ、ローソンチケットにてお買い求め下さい。

P・ミュランのぶつっと明るさに涙する...それが男気でもんだせ野郎ども!
—— ミルクマン齊藤 (groovisions)

「人間は好きか?僕は大好きだ。」
ケン・ローチは映画の中からそう語りかける。
是枝裕和(映画監督)

シネマルゴ梅田
御堂筋沿い 梅新交差点・東映会館南となり
TEL. 06-6343-1691

10:00 12:00 2:10 4:20 6:30